

二〇一九年度法科大学院入学試験問題

長文読解・小論文

注意事項

I 試験開始の指示があるまで問題用紙を開いてはいけません。

II 解答用紙は一枚だけ配付します。

III 解答にあたっては、黒ボールペン・黒インクのペンのいずれかを使用してください（ただし、インクがプラスチック消しゴムで消せないものに限りません）。それ以外で解答用紙に記入した場合は、無効とします。また、解答用紙欄外へ記入されているものは採点の対象としません。

IV 解答を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、一行の場合には横線で消して、その次のマス目から書き直してください。（余白には書かないで下さい。）修正液・修正テープを使用してはいけません。

V 問一の解答は表面に、問二の解答は裏面に、横書きで記入してください。問一の解答を問二の欄に記入するなど、記入する欄を間違えて解答した場合は、試験時間内に申し出があった場合を除き、無効とします。

VI 試験時間は八〇分です。

VII 問題は九ページで二問です。

問題 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

著作物の関係上、本文については、ホームページ上での公開および印刷物での配布は行っておりません。

〔出典〕

〔師岡康子『ヘイト・スピーチとは何か』（岩波新書二〇一三年）より〕

〔問一〕 文章の大意を、六〇〇字以内で述べなさい。

〔問二〕 ヘイト・スピーチを許さない社会を形成するにはどのようにすればよいか、あなた自身の考えを六〇〇字以内で述べなさい。